

A-116 西郷村(山村地帯)の栄養摂取状態について。
緑ヶ丘学園延岡短期大学 ○志賀リツ、関あゆ子、川五十香子。

目的 山村地帯としての田舎地区の平日における栄養摂取状態を知り、その結果により健康管理の指導に寄与するためである。

方法 昭和52年7月18日から20日までの連続3日間、食物栄養専攻2年の学生2名が1組となり、対象家庭を訪問し、朝、昼、夕の食事の前後6回にわたり、実際に摂取した食料を秤量し、調査項目にしたがって調査した。

結果 成人男子1人の栄養摂取量を基準とし、実際に摂取した栄養量を成人男子1人の栄養摂取量に換算して、それぞれを平均値を基準量と比較した。その結果、蛋白質は125%、その内動物性蛋白質は46%、鉄は117%、ビタミンB₁129%、ビタミンC174%といずれも1%の危険率において有意差が認められ基準値より高い。その他エネルギー、脂質、糖質共に充足している。しかしカルシウムは87%と5%の危険率において有意差が認められ基準値より低い。更にビタミンAは75%、ビタミンB₂87%といずれも1%の危険率において有意差が認められ基準値よりも低い。以上あげたビタミンについても調理損失率を考慮した場合、ビタミンAは60%、B₁90%、B₂68%、C87%となり、いずれも不足している結果となった。次に食糧構成においては大豆及びその製品は5%の危険率で有意差が認められ、基準値より多く、魚介類、獣鳥肉類、その他の野菜類は1%の危険率で有意差が認められ、基準値より多い。更にいも類、砂糖類、その他の豆類も充足している。しかし穀類は88%、乳及び乳製品は39%、緑黄色野菜類は57%といずれも1%の危険率で有意差が認められ、基準値より少なく、その他穀類ロロリ-は80%の危険率で有意差が認められ基準値より少ない。